平成22年(2010年)3月
第４号

三重県 新県立博物館 NEWS

編集・発行：三重県生活・文化部　新博物館整備推進室

ともに考え、活動し、成長する博物館にむけて

・新博物館の建築・展示設計について …P1
・より広く、みなさんに知っていただくために …P6
・協創と連携による活動
・みんなでつくる博物館会議２００９の開催 …P7
・調査報告会　納札が語る熊野古道の旅～新発見「熊野市大泊町善根宿納札」の世界～の開催 …P7
・しぜん文化祭 in みえの開催 …P8
ご案内 …P8
平成22年度　県立博物館サポートスタッフの参加者を募集します！

「三重の自然と歴史・文化」の魅力を発信し、「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざします。

建物イメージ図

平成22年県議会第一回定例会において、新博物館整備にともなう用地取得費及び建築工事関係予算が認められました。
いよいよ新博物館実現への第一歩がはじまります。

新博物館の建築・展示設計は、「新県立博物館基本計画」（平成２０年１２月策定）を実現するため、博物館としての機能及び公文書館としての機能を果たすことに細心の注意を払いながらも、「ともに考え、活動し、成長する博物館」にふさわしく、県民・利用者のみなさんと、活動と運営が展開できるよう、検討を進めてきました。

めざす建築の特徴、コンセプトは、次のとおりです。

○県総合文化センターや美術館と一体となった「文化ゾーン」

県総合文化センターや美術館との文化ゾーンの形成を意識し、配置や動線などに配慮した計画とします。

○県立博物館にふさわしい「外観デザイン」

周囲の景観に配慮しながら、県立博物館にふさわしい落ち着いた雰囲気や、三重らしさを感じるデザインとします。

○緑の環境を生かす「ミュージアムフィールド」

敷地内の緑の環境を生かすミュージアムフィールドを設けるとともに、環境保全の大切さが感じられる施設とします。

○緑の環境を生かすミュージアム・フィールド

敷地内の緑の環境を生かすミュージアム・フィールドを設けるとともに、環境保全の大切さが感じられる施設とします。

敷地内には緑が残っており、敷地内の自然環境の活用や環境配慮が感じられる施設としました。建物の周りの「ミュージアム・フィールド」は、敷地内の緑地全体のことをいい、里山と交流の広場で構成されます。里山、既存の地形や植生をできるだけ残しながら、県民・利用者のみなさんとともに育み、活用していくことを想定しています。ここは、多様なフィールドワークを行うとともに、散策ルートを設けて、身近な自然に親しむ、憩いの場となります。交流の広場は、野外での学習活動や、イベントなどを行うとともに、実習用の畑地などを設け、博物館活動などに役立てます。

こうしたことにより、新博物館では、館の中だけでなく、広い敷地環境を生かし、子どもから大人まで、自然を生かしたさまざまな活動の展開が可能になります。

あわせて、ハイブリッド照明などを設置することで、環境学習の場としても活用できます。

配置図・外構図

里山側　外観イメージ図

○環境への配慮が感じられる施設

多様な環境技術の導入により、省エネルギーをめざします。

外装デザインは、影をつくるルーバーにより、外部から館内の活動が意識できるようにしつつ、日射熱負荷を抑制する環境配慮型としています。主な環境配慮事項としては、太陽光発電や地熱利用、トイレ洗浄水や樹木の散水のための雨水利用、駐車場緑化につとめます。

さらに、ミュージアム・フィールドにはハイブリッド照明などを設置して、環境保全への取組が感じられる施設としていきます。

県総合文化センター側　外観イメージ図

○利用者のみなさんにわかりやすい施設構成

建物は、３階建てで、１階は収蔵エリアとし、エントランス（入口）は２階に設けました。交流創造エリアと展示エリアは２階と３階にあります。

○県民の皆さんに開かれた明るい「エントランスエリア」

エントランスエリアは、交流の広場に面し、飲食・休憩スペースなどを配置することで、だれもが気軽に立ち寄れる空間とします。

○明るく開放的な「交流創造エリア」

交流創造エリアの中心となる学習交流スペースは、明るく開放的な空間とします。

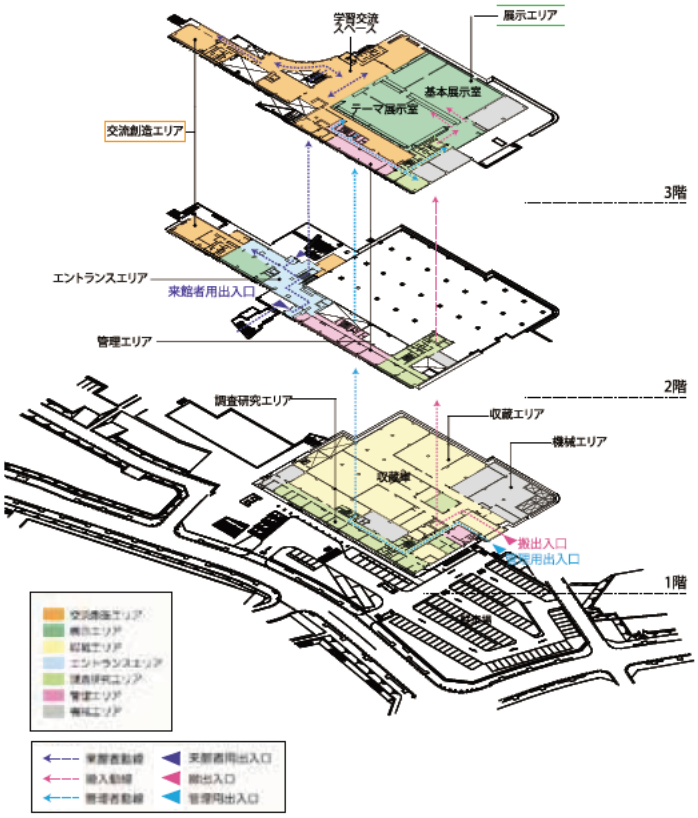
また、さまざまな相談への対応や、歴史的公文書等の収蔵資料の閲覧室を設けるなど、みなさんの活動を支援するところとします。

○交流創造エリアと相乗効果を高める「展示エリア」

展示エリアは展示資料の動線や保存環境に配慮した位置に配置するとともに、交流創造エリアと連携することで、博物館活動の幅を広げるなどの相乗効果を高めます。

○外気の影響を受けにくい「収蔵エリア」

収蔵エリアは、外気の影響を受けにくい１・２階にあります。資料の種類、内容にあわせて保存環境の異なる収蔵庫を設け、資料の保存、管理、研究に適した施設とします。



施設構成図

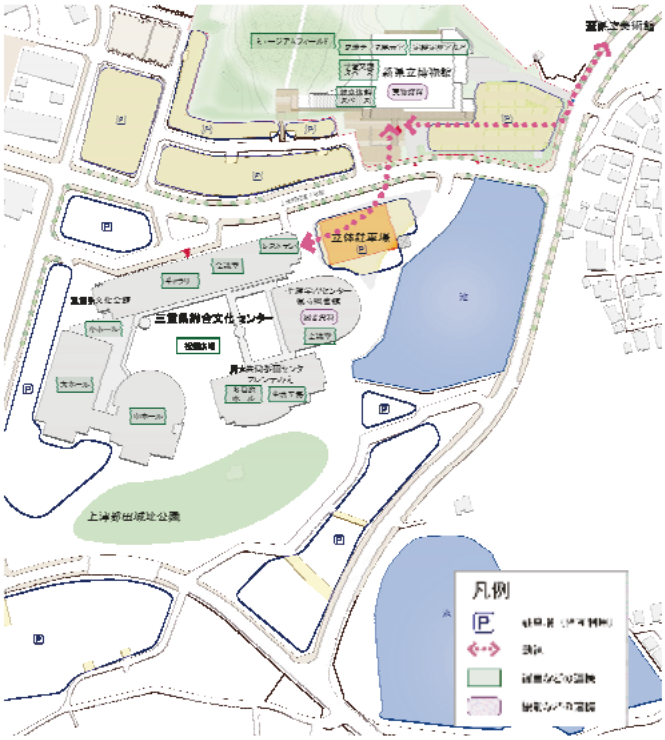
○隣接する県総合文化センターとの一体的な利用

隣接する県総合文化センターや美術館に、新博物館が加わることで、全体として、高い機能を有する、魅力的な総合文化ゾーンとなります。

ここでは、自然から歴史、芸術文化まで、みなさんが幅広く学び、交流し、創造活動を行うことができる地域になります。

特に、生涯学習センターなどが、各館の企画をうまく連携・広報できることや、図書館と博物館の公文書館機能が一体的に利用できることなど、各館の機能連携を図ることにより、効果的な活用が可能になります。

また、建物の設計を進める上では、同センターとの連携や設備の共用を意識した計画としました。互いに行き来がしやすい位置にエントランス（入口）を設けるなど、動線面で相互利用の利便性を意識し、また、新博物館の施設構成としては、同センターが有する施設・設備の有効利用などにより、効果的、効率的な設計となるよう配慮しました。



県総合文化センターとの連携のイメージ図

県民・利用者のみなさんとともに、「三重が持つ『多様性の力』」を探求し、新たな知を創造・発信する博物館

新博物館では、すべての博物館活動を県民・利用者のみなさんに開き、三重の特色である多様で豊かな自然と歴史・文化をともに探求し、守り伝え、そして生かし、力にしていくための活動を展開し、未来につながる新たな知（知識・知恵など）を創造・発信します。

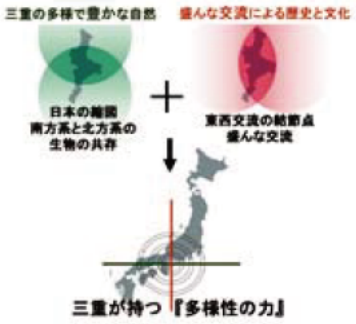
このような活動が積極的に展開できるようにするために、展示室内だけでなく、博物館の活用発信活動を展開する交流創造と展示のエリア、さらにエントランスエリアなどについてみなさんにご利用いただきやすい空間となるように、設計を行っています。

新博物館の基本的な考え方

三重が持つ『多様性の力』とは

三重の特色は、日本の縮図ともいわれる多様で豊かな自然と、東西文化の結節点としての盛んな交流により生み出された多様な歴史・文化をもつことにあります。

新博物館では、このような三重の特色である「多様性」を県民・利用者のみなさんとともに探求し、「多様な資産」を保存・継承することにより、地域への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらし、新たな文化を創造する力、未来を切り拓く力を生み出していきます。



三重が持つ『多様性』の考え方

○交流創造と展示の考え方

新博物館では、「三重が持つ『多様性の力』」を創造する交流創造エリアと、発信する展示エリアが融合することで、新しい活動を生みだします。

このような博物館を、県民・利用者のみなさんが利用し、展示を見ることで、自分たちが暮らしている地域への興味や関心、好奇心を持ち、その後の博物館活動に参加していただくことで、地域活動と博物館活動の相互循環が生まれます。

新博物館の特色は、新たに設ける交流創造エリアと展示エリアを融合する点にあります。展示を見るだけではなく、博物館に蓄積された三重の自然と歴史・文化に関する資料や情報を幅広く、だれもが活用し、活発に活動・交流できるようにすることにより、新たな知の創造・発信を生みだす場とします。

さらに、館内のエントランスエリア、館外のミュージアム・フィールドで展開する野外展示、県内各地で繰り広げる移動展示やフィールドワークなどのアウトリーチ活動などとも連動させることにより、活動の場を広げることができます。

あわせて、三重の今を未来に引き継ぐ県民共有の知的な財産として、県の歴史的公文書を一体的に収蔵し、活用できるように、公文書館機能を一体化します。このことで、資料活用の幅をさらに広げ、博物館活動を充実させます。

交流創造エリアの活動イメージ図

交流創造エリア　○活動がみえる、交流を促す、創造の場

だれもが三重の自然と歴史・文化に関する資料、情報を活用し、主体的に活動・交流できる空間

さまざまな博物館活動への入口となって、交流創造の活動の輪を広げるための中核的な役割を果たします。これにより、県民・利用者のみなさんと館、県民・利用者のみなさん相互の対話や交流が活発に展開されることで、地域への愛着と誇りを育み、新たな創造と発信につなげる場とします。

また、好奇心いっぱいの子どもたちが集う場とします。

交流創造エリアの活動イメージ

こども体験展示室は、子どもたちが博物館を好きになるきっかけとなる展示室です。

ミュージアム・フィールドが望める展示室。天井高を生かし、開放的な空間とします。訪れた子どもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、博物館の楽しさを知ることができる展示内容とします。

こども体験展示室の活動イメージ

展示エリア　○三重ってすごいところ！をさまざまな展示室から発信

基本展示室と大小さまざまな複数のテーマ展示室が連動して、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化を多角的に発信します。

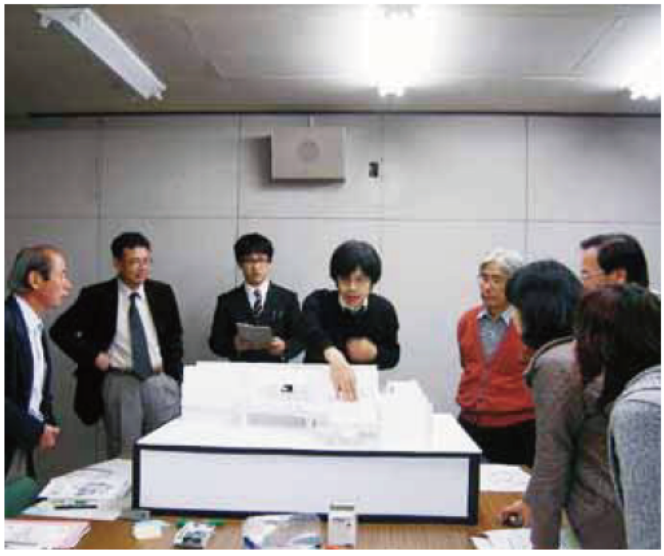
日本列島のほぼ中央に位置する三重は、南北に長く、－2,000 mの深海から標高 1,700m もの山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、まさに日本列島の縮図といえる多様で豊かな自然を有しています。その多様性に富んだ自然の中で、三重は、古くから交通の要衝の地として栄えました。また、東西文化の結節点、海と山との文化の出会う場所であった三重は、活発な人やモノの交流によって、多様で豊かな歴史と文化を生み出してきました。

こうした三重の特色である自然と歴史・文化の「多様性」の魅力をわかりやすく紹介し、「三重ってすごいところ！」を県内外に発信します。

基本展示室イメージ図

より広く、みなさんに知っていただくために

さまざまな機会に、新博物館の整備についての広報活動を行い、できるだけ多くの方から、ご意見をいただくために、同時にアンケート調査も実施しました。



学習交流スペースの使い勝手について、1／50の模型を用いて、県民・利用者のみなさんと意見交換を行いました。

平成22年2月末までに、さまざまなイベントや会議など、のべ105回の機会を利用して、のべ約17,900人のみなさんに、新博物館についての説明と意見交換を行いました。

イベントや会議などでは参加されている方一人ひとりに意見をお聞きすることができないため、可能な限りアンケートの記入をお願いしました。

この結果、のべ4,074人の方から回答をいただくことができました。アンケートは、皆さんの意見をできるだけ多く聞かせていただくため、自由記述の部分を重視しました。

集計は、会場別に結果を行ったことで、実施会場の特徴や参加者の方々の傾向がより明確にわかりました。

移動展示では、新博物館の整備のお知らせコーナーを設け、アンケート調査も行いました。

アスト津のみえ県民交流センターでもコーナーを設けて模型などで整備の様子を紹介しました。

特に、広報活動は、次のとおりあらゆる機会をとらえて実施し、アンケートなどにより多くの意見をいただく機会としました。

博物館行事
- 移動展示の会場
- 学校での出前授業
- フィールドワーク
- ワークショップ
- M祭（県総合文化センターが毎夏実施している子ども向けのイベント）

平成21年度に県が実施した大きな行事
- 全国高校総合文化祭
- 世界新体操選手権大会
- 子育て応援わくわくフェスタ
- PTA連合会長等研修会など

このほか、2月にe－モニターへのアンケートや県内小学生へのアンケートも実施し、e－モニターは1,502人の対象者中、994人に、小学生からは665人から回答をいただきました。

また、1月22日から2月26日までの期間に、文化施設や駅、ショッピングセンターなど32カ所で、のべ約6,700人に広報活動を行い、1,953人の方からアンケートの回答をいただきました。

子育て応援わくわくフェスタでの広報活動を行いました。

世界新体操選手権大会での広報活動を行いました。

引き続き、みなさまからのご意見をお聞きしていく機会を多く持ちながら、進捗状況や取組状況について、広く広報につとめていきます。

協創と連携による活動

ともに考え、活動し、成長する博物館として、県民・利用者のみなさんや多様な主体との協創と連携の取組を、開館前から実施しています。

○「みんなでつくる博物館会議 2009」を開催しました。

1月30日（土）に三重県総合文化センターフレンテみえ２階セミナー室Ａ・Ｂの２室で、新博物館に向けた取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんと広く意見交換をする場として「みんなでつくる博物館会議 2009」を開催しました。

当日は、140名の方にご参加いただき、新博物館の概要説明や、県立博物館の歴史をスライドで紹介するとともに、年間を通じ、県民のみなさんや関係機関と実施してきた新博物館に向けたさまざまな活動について報告しました。

会議後半は、滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員の布谷知夫さんに進行をお願いし、参加者のみなさんとの意見交換を行いました。

また、博物館活動に日頃から協力していただいているサポートスタッフのみなさんによるブース展示も行われ、新博物館にむけた先駆的取組を紹介していただきました。

この取組は開館後、県民・利用者のみなさんによる博物館運営への参画のしくみのひとつとなる予定です。開館までの数年間においては、新博物館づくりへの県民のみなさんの参画の場であると同時に、試行錯誤を重ねながら、新博物館にふさわしいこの会議のかたちを見いだしていく場として、今後も継続して開催していきます。

会場の様子

報告会の様子

サポートスタッフ　おもしろ博物館づくりグループと一緒に、昆虫切り紙の体験コーナーを開催しました

○調査報告会　納札が語る熊野古道の旅 ～新発見「熊野市大泊町善根宿納札」の世界～を開催しました。

三重県立博物館の移動展示「巡礼の道～伊勢参宮と熊野詣～」は、地元の市民団体をはじめとする様々な機関と連携して展示活動や関連行事を行うことにより、新しい博物館がめざす県民・利用者のみなさんとの協創を推進する取組となりました。

特に熊野古文書同好会の方々には、今回の移動展示を、日頃から取り組まれている「熊野市大泊町善根宿納札」の成果発表の機会と位置づけ、展示の設計段階から企画に加わっていただきました。さまざまな機関との連携は、それぞれが多くの時間と労力を必要としましたが、その分、内容の濃い展示をつくり出すことができました。

また、関連行事として実施した同研究会の調査報告会は、会場が満席となる169名の市民参加を得ることができました。地域の方々が主体となって行う地域の宝の発掘とその文化的価値の評価は、次世代を担う子どもたちの郷土愛を高めることにつながります。今回の移動展示は、これからの博物館が担うべき役割のひとつを具体化する好例となりました。

移動展示会場の様子

調査報告会の様子

パネルディスカッションの様子

※熊野市大泊町善根宿納札（くまのしおおどまりちょうぜんこんやどのうさつ）

熊野市大泊町若山家に保存される納札（巡礼が霊場を参詣した証として納める木や紙でつくられた札）は、江戸時代後期から明治期にかけて熊野街道をたどった巡礼たちが、善根宿（巡礼を無料で泊めた宿）を営んだ当家に宿泊のお礼に納めたもので、その数は、5,000点以上になります。

○「しぜん文化祭 in みえ」を開催しました。

３月20（土）・21（日）、菰野町の菰野地区コミュニティセンターにおいて、「しぜん文化祭ｉｎみえ」が開催されました。この行事は、おもに県内の自然関係の市民団体や博物館・水族館などが集まり、日頃の活動などを紹介するものです。市民団体などで実行委員会をつくり開催しているもので、今回で４回目になります。昨年度からは、シンポジウムの開催の形で新博物館整備推進室も加わり、今年は当室や三重県立博物館の他、環境森林部の自然環境室も共催の形で準備段階から加わりました。

今回は、県内外の各地から35団体が集まり、２日間で800名の来場者がありました。生きた魚の展示や、ウミガメなどに触れる企画など、興味ある展示がありました。また、県立博物館サポートスタッフによる昆虫切り紙づくりや自然の材料でのアクセサリーづくりも行われ、多くの子どもたちでにぎわいました。

ブース展示の様子

シンポジウムの様子

特に20日(土)には、平成22年10月、生物多様性条約第10回締結国会議（ＣＯＰ10）が名古屋市で開催されることから、「生物多様性の保全と博物館の役割をテーマ」としたシンポジウムが開催され、約100名の参加がありました。

第１部基調講演には、京都大学大学院人間環境研究科の加藤真教授を迎え、「海やまのあひだ～三重の自然と生物多様性～」と題して、三重県がもつ多様な自然の意義についての講演を受けた後、大阪市立自然史博物館の石田惣学芸員から「身近な川の自然をみんなで調べよう～市民と博物館の協働による調査研究の事例紹介～」、愛知学院大学歯学部の子安和弘講師から「ニホンカモシカをめぐる生物多様性と大学博物館」と題した話題提供を受けました。

さらに、四日市西高等学校自然研究会 The Waders と津市立西郊外中学校による地域の自然調査や環境学習の成果についての生徒発表もありました。

シンポジウム第２部の参加団体交流会は、「博物館と市民団体との連携」をテーマとして実施しました。

布谷知夫さんから琵琶湖博物館での実例をもとに、市民団体と博物館の連携のあり方についての話題提供や、新博物館計画の概要説明の後、新博物館についての意見交換が行われました。

２日目の21日には、ブース展示や参加体験活動のほか、参加団体の活動アピール会や菰野町内に自生する国指定天然記念物のシデコブシ群落の観察会などが実施され、２日間の日程を終えました。

新博物館は、こうした地域の団体のみなさんと連携して資料の収集保全や調査研究などの活動を進めていきます。

体験コーナーの様子

～ご案内～

◆平成２２年度　県立博物館サポートスタッフの参加者を募集します！

三重県立博物館では、さまざまな博物館活動にご参加いただくことで、ご自身の知識や技能を深めていただき、世代や興味・関心を越えた交流や、地域の再発見などのきっかけづくりをしていただく、サポートスタッフの仲間を募集しています。参加ご希望の方は、三重県立博物館ホームページにある参加申込用紙に必要事項をお書きのうえ、お申し込みください（5月12日（水）締め切り）。

詳しくは

三重県立博物館　サポートスタッフ担当までお問い合わせください。

〒514-0006　三重県津市広明町147－2

TEL：059-228-2283　FAX：059-229-8310

E-mail：haku@pref.mie.jp　ホームページアドレス　http://www.pref.mie.jp/HAKU/HP/

三重県生活・文化部
新博物館整備推進室
〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL:059-224-2175　FAX:059-224-2408
E-mail:shinhaku@pref.mie.jp

新博物館の情報は、ホームページからご覧いただけます。
http://www.pref.mie.jp/SHINHAKU/HP/